

9月29日(土) 特別講演 1

目が合う表紙 “雑誌の顔”の作り方

関 龍彦

講談社 VOCE(ヴォーチェ)編集部・編集長

9月29日(土) 特別講演 2

「ニッポンにいい男を！」

下村 朱美

株式会社シェイプアップハウス 代表取締役

9月30日(日) 特別講演 3

顔認知のイメージング：
主として脳波と脳磁図を用いた研究

柿木 隆介

自然科学研究機構 生理学研究所 教授

T-1

目が合う表紙 “雑誌の顔”のつくり方

関 龍彦

講談社 VOCE(ヴォーチェ)編集部・編集長



【講演要旨】

『ViVi』『FRaU』『VOCE』と長い間、雑誌の表紙を担当してきました。常に「売れる表紙」を創るべく、スタッフ全員、最大限の努力をしますが、いつも成功するとは限らない。「成功するための絶対法則」はないと思いますが、「成功した時の共通点」はあると、20年近くこの仕事をやってきて感じています。

それが「目が合う」かどうかということ。書店ではたくさんの女性誌が売られており、雑誌ごとに本気で創った表紙 そのモデルが、消費者を熱く見つめています。その中で「選ばれる1冊」になる時の共通点は、「買わなくちゃいけない！」と思うほど、目と目が合ってしまった時。

モデルの表情、ヘアメイク、ファッション、ライティング、バックの色、メインコピー、デザイン etc. 「目が合う」ために必要なものは何なのか？

いくつかの『VOCE』の表紙例を紹介しながら(自分の向学のためにも!)解き明かしていきたいと思います。

【プロフィール】

1964年生まれ。

早稲田大学第一文学部卒業後、'87年講談社入社。

『ViVi』『FRaU』の編集者を経て、'97年、日本で初めてのビューティ専門誌『VOCE』創刊のため新雑誌準備室へ。

'04年より現職。

T-2

「ニッポンにいい男を！」

下村 朱美

株式会社シェイプアップハウス 代表取締役



【講演要旨】

日本の女性は美くなりました。男性はどうでしょうか。いきいきと暮らす、大和撫子たちが主役になった今、日本男児のほんとうのかっこよさが、見えにくくなってきました。外見も、中味もそのどちらも欠ける事のないほんとうのかっこよさへ。ニッポンにいい男をたくさんふやすために…。1986年、日本で初めて男のエステ「ダンディハウス」をオープンして以来、延100万人以上の方々がダンディハウスでいい男へと磨かれてきました。男性エステのパイオニアとして、男性美容の歩みや最新動向のほか、効果写真や検証データなどをまじえながら本物のエステティック効果をお伝えしたいと思います。

【プロフィール】

鹿児島県生まれ。京都の池坊短期大学を卒業後、池坊文化学院、池坊中央研修科で和の美、作法を学ぶ。その後、カリフォルニア大学に語学留学。82年に痩せる専門店「シェイプアップハウス」第1号店を大阪・難波にオープン。83年にシデスコ国際ライセンスを取得したほか、国内外の各種アカデミーにて美容・エステに関するあらゆる知識と技術を学ぶ。86年日本初の男性専用エステティック「ダンディハウス」をオープン。2005年には世界優秀女性起業家賞をエステティック業界で初めて受賞した。現在、男のエステ「ダンディハウス」63店舗、エステティック「ミスパリ」58店舗、ほか「スパ・ゲストハウス」2店舗、「ミスパリ ダイエットセンター」6店舗、「ミスパリ エステティックスクール」9校を経営。

T-3

顔認知のイメージング： 主として脳波と脳磁図を用いた研究

柿木 隆介

自然科学研究機構 生理学研究所 教授



【講演要旨】

私達の研究グループは、科学技術振興機構「社会技術研究」の中の「脳科学と教育」研究プロジェクトの1つである。この研究グループの主要研究目的は、脳波、脳磁図、fMRI、NIRS といった非侵襲的 Neuroimaging 手法を用い、その専門家と乳幼小児心理学の専門家が協力して、人間における顔認知に関する発達学習過程を明らかにすることである。本日のサテライトシンポジウムでは、各研究者のこれまでの研究成果と最新の研究結果を発表していただく予定である。

また、私の本日の発表概要は以下の通りである。

脳波と脳磁図は、ミリ秒単位の高い空間分解能を有するため、脳内での情報処理過程を詳細に知ることができる。特に脳磁図は、脳波に比して10倍以上の空間分解能を有するため、人間の高次脳機能解明には極めて有用な機器である。本講演では、私達がこれまで行ってきた研究を中心に、脳波と脳磁図を用いた顔認知機構研究の現状を紹介する。

【プロフィール】

九州大学医学部を卒業後は、神経内科の臨床修練を行うかたわら、脳波研究を行い学位を得る。1983年より2年間、ロンドン大学に留学。帰国後、佐賀医科大学を経て、1993年より生理学研究所の教授に赴任。脳波に加え脳磁図を主要研究テーマとして研究を遂行。近年は機能的MRI、近赤外線分光法(NIRS)、経頭蓋的磁気刺激法(TMS)などの研究もおこなう。研究テーマは多岐にわたり、体性感覚、痛覚などの脳内認知機構の解明や、言語、顔認知などの高次脳機能の解明を行っている。

趣味は俳句、将棋(アマ三段)、テレビゲーム(特にドラゴンクエストなどのRPG)などである。ゲームをする時には主人公に「リュウケ」と名づけている。「カッキー」と呼ばれることが多いが、先日テレビでネプチューンと共演した時は「カキピー」と呼ばれた(あまり嬉しくない)。家庭では妻子から「オッサン」と呼ばれている(全く嬉しくない)。